

<東日本大震災から5年を迎えて>

東日本大震災より5年の節目を迎えた今年、被災地では集中復興期間を終え、復興・創生期間に入った。REICでは、被災地の現状と復興への課題を調査すべく、宮城県各地へ訪問した。そのうち、二町について報告する。

➤ 山元町

県の東南端の太平洋沿岸に位置するこの町は、震災時には10mを超える津波が到達し、海岸沿いの6行政区の全域が津波により水没した。

この影響により、JR常磐線線路が流出し、山下駅・坂元駅が全壊となった。



被災前：2007年6月



被災後半年：2011年10月



被災後1年：2012年3月

写真提供：一般財団法人東北地域づくり協会

現状

- ◆ コンパクトシティの理念のもと、新住宅地を3地区で整備し、うち2地区では復興公営住宅の引き渡し、一般宅地分譲の募集が開始されている。
- ◆ 2014年末に常磐自動車道本線が開通。JR常磐線の運休区間「相馬～浜吉田」間についても復旧工事が進み、高架橋・橋梁・レール敷設などはおおむね完了し、今年12月末までには開通予定である。
- ◆ 防潮堤は、護岸全面を標高7.2mまでかさ上げし、今年秋頃までには整備完了予定である。また、元々あった保安林の場所に盛土を造成し、植栽整備をすすめている。

課題

- ◆ 人口減少・高齢化が加速している。人口：震災当時 約16,700人→現在 12,500人（約25%のマイナス）、高齢化率：37.1%（宮城県長寿社会政策課 2016.3.31 現在）

- ◆ 町内全面積の3割が「災害危険区域」に指定されるが、現在も500世帯以上が暮らしている。新住宅地への入居も、災害公営住宅（賃貸）への入居が進むも、入居者の高齢化が懸念されている。一方、分譲宅地の整備が進むも、入居が進まない現状がある。



被災後：2011年10月
写真提供：一般財団法人東北地域づくり協会

山元町：中浜小学校（震災遺構としての保存を検討）



現在の様子 2015年11月：Google earth



山元海岸：防潮堤整備（標高7.2m）

➤ 南三陸町

県の北東部、志津川湾・伊里前湾に面するこの町も、震災時には約 15m もの津波が到達し、町内を流れる川を遡上し、内陸まで浸水した。

この影響により、防災対策庁舎をはじめとする役場・庁舎・公民館・小学校など公共施設が多数被災した。



被災前：2011年5月



被災後半年：2011年3月

写真提供：一般財団法人東北地域づくり協会

現状

- ◆ JR気仙沼線「柳津～気仙沼」区間で運休中となっているが、2012年末よりBRT（バス高速輸送システム）が本格運行開始した。
- ◆ 志津川地区にオープンした仮設商店街「南三陸さんさん商店街」。中小基盤整備機構により仮設店舗は5年間無償貸与。この貸与期間が終了する今年末に新商業施設で開業予定であったが、国道整備などに遅れが生じ、2017年3月まで貸与延期が決まった。新施設は、建築家隈研吾氏による構想で来春オープンにむけて現在計画されている。
- ◆ 町職員43名が死亡・行方不明となった、志津川地区にある防災対策庁舎は、震災遺構として宮城県が2031年まで管理（保存）する事となった。

課題

- ◆ 住宅の高台移転は、用地取得の問題等により事業の遅れが顕著である。また、海岸部の低地は最大20mものかさ上げをし、事業用地として整備しているが、企業・観光施設等の誘致も進んでいない。
- ◆ 「職住分離」による新施設での店舗経営には家賃負担が想定されるため、現事業者の高齢化が深刻化する中、経営継続が困難な事業者が多く出る可能性がある。また、夜間ゴーストタウン化が懸念される。

- ◆ 復興の遅れによる人口減少が加速している。人口：震災当時 約 17,500 人→現在 13,700 人
(約 20%のマイナス)

南三陸町：防災対策庁舎（震災遺構としての 20 年保存決定）



震災直後：2011 年 4 月



現在の様子：2016 年 5 月



南三陸町：志津川地区 盛土（最大 20m）